

政治で一番悪いのは希望を奪うこと

藤野議員が安倍内閣の暴走を批判するごときを罵らざる展覧会

日本共産党演説会が3月27日、リージョンプラザで行われました。町内会行事などが多くなかで約250人の市民のみなさんが参加してくださいました。

この日のメインは藤野保史衆院議員の国会報告でした。同議員の演説は数字に裏付けがあり、しかも情報が新鮮、多くの参加者からは「わかりやすく元気が出た」「国会報告が生き生きとしていて、今後のたたかいにプラスになる」などの感想が寄せられました。

この日の日本共産党演説会で強く印象に残ったのは藤野衆院議員の「政治で一番悪いのは希望を奪うこと」という言葉です。



自治体などのあらゆる努力を吹き飛ばしてしまうTPPに言及した時の言葉ですが、安倍政権下のどの問題にも当てはまります。藤野議員の「福島では、原発被害が形を変えて深刻化している」「アベノミクスは一部の大企業に利益をもたらしたが、多くの人たちに

は暮らしを苦しくしただけだ」「言葉に共感しました。一方、希望が持てたというか、希望を感じたのは国民の世論、運動が政治を変えつつある」とい

とです。その典型は野党共闘の実現ですが、藤野議員は、高浜原発をとめた大津地裁の仮処分決定にも触れ、「裁判官も安全神話から抜け出した。これからどんどん（こういう決定、判決が）出てくる」とのべました。参加者からは「頑張れば、政治を変えられると感じた」との感想も聞かれましたが、これはひとことで言えば、「希望が持てた」ということでしょう。

演説会では今月上越市で行われる政治戦でがんばる日本共産党の四人も紹介され、それぞれ決意を表明しました。

市内の各小学校で卒業式

3月24日は上越市内各地で小学校の卒業式が行われました。私も吉川小学校の式典に参加してきました。

同小学校では36名の児童が巣立っていきましたが、感動的な式典でした。在校生と卒業生のお別れの言葉、今回もよかったですね。



それと高山朗校長の式辞が熱かったです。先生は今回定年で退職されるといふことで、先生にとっても「卒業式」です。卒業生の学年は普段、「にじいろ学年」と呼ばれていました。先生は「一人ひとりの色が重なり



【アズマイチゲ】キンポウゲ科の多年草。漢字で「東一華」と書きます。花は白色、今頃から5月頃まで咲きます。キクザキイチゲと似ていますが、葉の形が違います。吉川区の山間部で撮影しました。

り、思いもよらない（素敵な）色を出す。（これを頭に入れて）中学生生活をスタートさせてほしい」とのべました。また、同校の校歌にある、「まゆあげて」を引用し、どんなときも未来を見つめ、たゆまず進んでくださいと訴えました。感動的なお話でした。

活動レポート号外に大きな反響

3月下旬に発行した私の活動レポート号外が話題になっていました。話題の中心になってい

るのは、市がためこんだ146億円とも言われている財政調整基金です。

上越市政「ためこみ3つの異常」
自分が働いて貯めるのは美德ですが、市政のため込みはちがいます

①ためこみ額が「異常」
自由に使える「財政調整基金」
8年で5倍以上！
27億円 → 146億円
2008年 2016年3月末見込み

②ため方が「異常」
●市民サービスカット・負担増… ●教育・子育ての職場を非正規雇用

記事を読んだ市民からは、「びっくりした。市民サービスを削って、ここまでためたのかと呆れている」「これまで市は金がない、金がないといっている市民の願いを汲んでくれなかったことが多かった。おかしい」「役所で財政の仕事させてもらったが、このためかたはまさに異常だ」などの声が寄せられています。

はしづめ法一の活動レポート

No.1751 2016.4.3
発行・編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hosei.jp/

ブログ「ホーセの見である記」はこちら
橋爪法一 検索

春よ来い

第三九九回

ネコと一緒に

三月もあと数日で終わりという日、上越市の山間部で一人暮らしをしているムツさん宅を久しぶりに訪ねました。ムツさんの住まいは集落では一番高いところにあり、家の前の庭からは兜巾山（とつきんさん）がよく見えます。

玄関でブザーを鳴らし、「ごめんください」と声をかけると、奥の居間から「どうぞ入ってください」との声が返ってきました。でも、こちらは顔を見せてもらえればそれでいいと思っていたものですから、入らないでいると、ムツさんは時間をかけて玄関まで出てきてくださいました。「あら、ごめんなさい。橋爪さんかね。てっきり薬屋さんだと思ったもんだすけ……。さあさ、入って」ともう一度、誘ってもらいました。

居間に行き、コタツの窓側の方に入らせてもらおうと、台所と仕切つてある障子戸にネコの出入り口らしきものが見えました。下から五〇センチくらいの高さのところに、縦二〇センチ、横三〇センチほど障子紙が短冊形の暖簾（のれん）のように切つてあります。「前にも同じような高さのところからネコが出入りしていたよね」と尋ねると、ムツさんは「そいがです」と答えました。そして、「きょうは天気がいいもんだすけ、ネコは外へ遊びに行きました」と言いました。

数年前にお茶をご馳走になったとき、現在飼つておられるネコとは別のネコがちやうど家にいたのですが、やはり台所と居間を仕切る戸の一角にネコ専用の出入り口がありました。そのときのネコはこの出入り口から私を見つめて、おばあさんを困らせる人かどうかを確かめ、大丈夫だと思つたと、さつと引つ込んだものです。

「いまのネコもあそこでお客の様子を見るがかね」と訊くと、ムツさんは「せんのネコと同じこんだの」と言つて笑いました。前に飼つていたネコはすでにいなくなり、いまムツさんは別のネコと一緒に暮らしているのですが、一緒にいると、ネコも人間も自然と家族意識が芽生え、それがだんだん強くなつていくのかも知れません。

コタツでは今冬の雪のことが話題になりました。今冬は雪が少なく、大雪のときと比べればたいしたことがなく、ずいぶん助かりました。ムツさんの家ではブルドーザーなのか、ユンボなのかの確認はしませんが、機械で除雪してもらったのはほんの一回だけだったといいます。ただ、前庭にはまだ雪がけっこう残っていました。ムツさんは「ダキあるすけ、すぐつかえちやうがです」と言つて、外を見ました。

いま、ムツさんが飼つているネコは雌です。六年前に赤ちゃんだったころにもらつてきました。名前は「華（はな）」です。どういふ名前にしようか迷い、付けられないでいたので、あるパーマ屋さん相談してこの名前にしたのだそうです。

赤ちゃん時代から育てたので、「華」はムツさんを親だと思つているのかも知れませんが、ムツさんによると、「ちよつと変わったネコ」になりました。ムツさんがトイレに入ると、トイレにある台の上から様子を見ています。ムツさんとともに外に出たときに、「華ちゃん、お昼だから家に入るよ」と声をかけると、一緒に家に戻ります。医者に行くときには、「これから医者に言つてくるよ」と言い聞かせると、後追いしないとのことでした。

ムツさんにとって「華」はいま、一番大事な家族です。寝坊したときには、ムツさんの顔をぼんぼんとたたくのだそうです。もちろん、爪は出しません。「華」はムツさんのしゃべる言葉もわかるし、気持ちもわかります。ムツさんは言いました。「華は私の生きがい。華がいればさみしくない」と。

「川谷もより百笑百年物語」ができました

階的なサポート体制をつくるなど魅力的な内容となっています。

現在24世帯、人口46人の吉川区川谷地区。ここの「川谷もより協議会」が今後百年の間に川谷地域をどうしていくかを話しあい、議論し、計画としてまとめました。

計画では50年後には川谷地区の人口を100人にし、100年後には百姓を100人以上にする。みんなが笑って暮らす地域にするという大きな目標を立てました。

今後、上越市内の中山間地だけでなく、全国の市町村の中山間地対策にもいい刺激を与え、川谷地区にとってプラスになる反応もあることでしょう。

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことでした。

	3月23日(水)	3月30日(水)
上越南消防署	0.050	0.057
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.053	0.053
頸南消防署	0.053	0.047
東頸消防署	0.057	0.057
高士分遣所	0.050	0.043
名立分遣所	0.050	0.050

単なる夢物語ではありません。現実をしっかりと見つめ、話し合つて作成されただけに現実的な、すばらしい計画になりました。昔からの助け合いの仕組みを有償ボランティア制度として復活させる。お米のブランド力アップ大作戦を展開する。移住、定住に向けた段



市内でも幸来花咲く

幸せがやってくる花として知られる「幸来花」（こうらいか）が市内でも咲き始めました。

写真は浦川原区のSさん宅で咲いた幸来花です。オレンジ色の花を咲かせたその周辺はなんとも言えない素敵な空間をつくりだしています。